酒飯物語

下

473
437

13
473
2上

遠藤記念
門べ文庫
號 473
巻 2

本傳

酒取物語下之巻

江戸前廼醉客　平亭銀雞戯述

○ビしゃもあるまそらあのまぶ刃をうつて。ちゑんのあんぎとまそらんとぬうぢよ
まちんいうう刃をうつきはしたのミれいうちよやのあしようくうそぴあみ
ぢうろあうたとんまのあくぞうもあわさびあくふの上をとこくるその髭。
刃をうつるのとんとしかさねがうのさうごんい上るうがんふあくうど。
いんぢやまくたうのさうがんあのさうまるふとらふくのてあまくるとうらふ。
さいたんきうるぜげんの山ハぢやうまをとくちぎにしてむまふ一りうあうあけの月
ようひうる眠きうろく。コレ女中さんうくあまきよ。あうくみまんのあうるぢあん
まうきうるまうがうつくしまをぎつとあとさやてうあまあくがあのそれうういつそ山

[illegible]

○作者曰このおんなぞちうぎをゑんぐるふるもゝの女よあゝびせんぐるいまだの
まきおちかゝる山のおそろつまもをきゝおとらめ、そらきくゑんのやさをつあさ
せんとおのゝをもちひゝかゑ花ぐまのあいをちひゝようもうゝてあゞみきりやちのあゝ
きをようとこゝろゝえてせゝこゝもゆうめゞをとひゝんゝをうきやちにふゝをゝもさ
みあゝびせゝんの男女ゝゝかこれふゝえゝるゆ臣ゝおゝそゞうめゞれゝんもゝくきりやゝ
あゝゝれゞゝこゞゝろゝえちゝひゝうゝてあゝてゝちゝゝむゝふゝゝゝびゝまゝとゝうゝひゝき女のゝうめゞれゝい
ほゝあゝらゝゝゝ

本戸ぢん
「サア〳〵ひやうぢんしんや
うそひつちうのあと
ひきこあくふく
ゐめでぐぶい
てぐもちんう〳〵
「ぐるくも ちあ あ
おちくんえ
ちふふ
ちしひものじや

ぢ
ぢ
ぢ

「コヤ〳〵ごあのさつらさ〳〵
りくまし〻こしひめよこく
そこち月ゝえさうまい

ひめ「ひるのそこち
のやぎぐい
まこの
あくこ
月ゴ
ぐんぐ

「さて〳〵そば
ぐあられむさ
めとあこまこう
南山うも
ぐんならし

あまぐぜひめ
らぐひめと
あつみ
見ば義
かぐやひめとよし
いざ〳〵あ
ものうちふ
のぞきふ
きやうう。
それふあ

㊀ひとちやあとのまであるぐくあんあとと
らありのいまにしろくしいとそこらもこ
㊁
㊂
㊃ひくやら
まとみざる
やらえぐら
あぐも
こひのう
せんあい
姫の
ぐ
ぐ
ぐ

ぐんぐんぐんぐんとこのきてるあがえるをはしこれくまつてくおやうちのほとあるあるとば
男ふつえらうるすえるかぐあるうあられおのをげののけふあるあふとの
さあぷうさまさん者よりを田所人百姓ぷうをけまでおのいをまちらせ
こうるをこうせどのつまうん六味九ちさんそうるんとのませんのとあいも
あつられあうえるぶ者あんをだうどうぬほをいつれをあをぬうをさ
あをぷがぐやひめとあ〳〵見えるくやまひもあるうあべうどさを〳〵ちんめう
だうのやうをもうをまうしぷげんうをんあがやさむ〳〵いごやぷ紙ぐや者ぐを
をつやまでぐうらあんあのうせやうをんぷそれあ〳〵ふうくやしてをやくぜ快
ちうをまくとうを者んせうのとがをうけ。おをけのやうふうをつをあてふをく第
かうをうる。かくて内ゆいかぐやひめぐををあうのあどつまび〳〵ふをうどふをう

いをどぐをうどをいうをどぐれをせうをまひ。服ぐいうぐうをまちうをまくどををてあけ
わぐよう〳〵ちんうのつのでふうをちうをてんめををとと。日とうをめかうふいで
うをまひ。おきうあぐいくふをうをうなまへば酒のあをひふんぷんとをいくのうちふ
ひううとをふをう。をしもひめんせんざいをおうをあうあとつ〳〵居うしをえ
なをまひをぐちうくをうをて。ををとうをうなまひをてををうくをしみをまうを生ををあう
をのをああをあいなあうををる。ちんうをめをあふあふをなるあ〳〵ぷ。をあうをもあふあふやう
をんををうぷあのをうのつうあうをう。をなをのをうの者んぎくををきふをう〳〵でい
をぐをを田ぷ。京あくつを田をたいつをまでも。ぷうあをとあうをたのをまんかあ〳〵であを
あんをあうをぐあぷうをあいんぐをを者ををとぐうをとをあをうををあのうちふををを
うのひめををつをし〳〵ぷ。あううぐきをとあぐう。をを〳〵ふうをまをて今をまでををひを

[illegible]とぐるたるまつぱふぐさあり。ふるのひあたらまつをあたゝよめぶのうるお
いるようとうえゝぐうくるわいきええてをうろゝぐろどあをろきこるあけくまひ
こんあさびはかぐやひろぐさわどあろくまるひるぐたるつてたとろあひまうずま
まつちどもぐこをあるたてでようゝかるぐそえんせこまゝとあをるそゝく
のるるんぱかぐやひめぐざるのうちようまるゝいでくるうどとるゝぱゝあるるを
あじゝびあゝぬこの男をぐさわどまでおあがるさんすあゝがるゝゝるも
うれゝるもとぐあんゝじがうゝぐじあるとまるあぬものろうるきゝうる一まわう。
そもんうるうてるあるきのるるまゝぐあるそれるやくるもさゝとるまろんとおんやく
於るんやゝ上かれんぐこうどいるぐあるひるとまゝじまるこのるあたるとおんるのゝまゝあ
日ゝるのまゝうるるまゝるつぱゝおきあのゝうるるゝいでくるまひゝうゝどゝるあつけうるうけるも

かぐやぱゝぐるのゝるれゝるるもれゝぐうゝるるゝるゝるゝまうあゝ。三丁ばかり
あゝ七八たびもあうゝるうてゝひあゝぐうるるるあゝぐあゝるるまゝゝぐおんるるのひとゝぐも
あきれゝうりてゝおんあるるつるあうゝのゝぐるるあるるるる
〇ゝうゝどゝるあるあゝるるゝるゝでゝるまひゝうゝかゝぐやひめゝぐるるるるるゝゝゝぐ。きぬ
けの為るるまひゝゝどゝくるゝゝでゝるゝるるあゝゝるなまひゝゝるまつの根ふつまゝぐゝよゝ
さ為ふゝるゝひゝぐまひゝるまゝゝぐおんゝるものひとゝぐゝどゝるゝるあゝるゝるゝるゝて。
ゝんゝこゝゝ腰ゝるおゝこゝゝるゝるてゝまゝるゝるゝるゝゝどゝるゝるゝとゝるゝんゝゝるゝゝるゝまひゝゝさゝるゝゝるゝゝ
あゝたまゝの根あゝゝめゝゝゝゝのゝるゝどゝゝゝんゝゝゝるゝゝゝゝ

あるぶ〜ぞやとげきうんをあらどくて。
さんこ〜をこそんとあてまふぞこいふ
をよくうちこまひ〜と見え。

さもつきうてあんに
たぐ〜ごろうもお徒の
ひと〜も大いふこまう。
こいうゆせんとさるだ
るところ〜薪を
つくる車をひきて
どろ〜ぐるまびろど
うらめ〜さうふい車と
ひこ〜とものめ
ノ車をうて

車カ
ヲヤねの車と
ちろうてそろと
うるいコレがろんの
ちろうを
十くんぐるま
車おのつそ
るだの
ゆく

ちんとのせてゆくぐ〜とのちらくぎゆうゆ
けとぶ用ゐ〜めつらくあるごきとこふ
とのせるゆ
こあの村のまつりで天しきの狂ゐんあ
ひらせきせうとやよまびあんくものひと
見しかるきふあるゆあまびあちらしうべ〜
車を引ころうてけどあいてまへ〜
よのうんとあのあまびせんくあく
まあのれがえんちんとぬきて
このどえじめてかるる車よのく

車カもたじめてうる車をひくとあと

車ひきぐるま大ごあけあ
車をひいぐるま用ゐ多ホウ。コタガホウ。オホウチヘ。ヒキコメエノー車の上でこのどこ
ウ引とのびをあさまふかどあくたいくちうづきるひとろふまこーの
坂わうてあのひぐ車をやくたしうるふこのどあどろきたまひたまけ丹
たまけぶ。とあんこああげくまくいは供のくイヤせんどうと車ひきこと
ちぐひいとあこくやうるこそとうくたま
○さてまこかぐやひめいまの月じめあうう月のあめあろういそうるとこそ
つねうもめけあのひのていあしぐそれうしてる月をとる こびふいこく
あるくまふゆあきまふかどろきいうぐまこうふそこそひ〜ふかぐや服あく
いひうくふこくうりまこの月けあまふ〜まくうさんとあうひ〜ぐさそうしあき

たなばたとあまのがはをつゝみてつけまつるべし
ことしわすれぬるの月のあはれあるべき月の
あめ酒星のむまれあるべきあん月の
酒をこのみて世をあそびこまふと
ふるくめでひとてびとふと
下界ふるさと
さけのとくをあ
まねく世のふ
ひろめさせんすちん月あるべしあるべし
とて世をびつるこころのりふるこちをとらの

あふぶつもこと
まそのこゝろくと
おぶしめ
まんあきこめ
くべきまし
ひろかとそも
きそこあを
下界と今さら
ふるきまへ
あんふのふ
こさんます

ふるく　やこせしへこれこそあやある
酒星ぬしのたゝひあり。ゑ。ふ
天帝より下ゑの酒の世の
こゝをこゝろんこゝるものを
めしのゆせ。月のあること
酒こゝろべしとのゝすまそ
ひらひあるこゝろくこゝろべしとの
あゆせをあしい月のひろあそとく
ようこゝをこゝさをべあんあこゝへこゝくいこゝる
七月十三日の　おゝかるべむひのひとべ

そあとのこゝをとゝるこゝるも
あしぬこゝきせよこゝらすこゝ
こゝろ　こゝんな

おひの月の上こゝ
こゝやべゝやひめ
こゝしゝ

まゐらせ。そのとたへぜひともうちのあつこれをやくそくのあつ。みくさと
をしあたてまつる。あんみあくびふうのめんのひとびとおいてるまで。ちらくさうう
あれとてくゆあげ。てんてうのたまうりあれあつこと。七月十三日の秋向ひ
のせうまのあるべしとぴあのを陸こをきくまつ。あきまいたきふちうとお
さ。さそもこころえぬうすきくもはうふれてあひていうあるのとたな
ふうたかとそあるあるはうせん。あんみふるとて一日もこの世界ふあるらふきや
とあひのうるのくうう。ろろ。潤こびせ。ことろとそ動とろう
○ろどあく七月十三日ふあうそとべあきまふいとびかはしさまさう。へうあ
あれ月のまとうがやひあのむうひきうあべそのとたのかふ。さふいう
をうあうんとあんどうづひうそだうあれ。とふけ十三日いうろく

のけさうとしき日をとうけうとつあるをうとうとびあるたう。ひうるとまふ
かあくびきうてこれをとうんとすぴうとふぴうとたん人まふあるとて一
云もをうきるのけをく。たびひをうてあまるのまあう。をうとどもの
をふいうてぎあくだうきうとうあて。あきいくまふけつてきうくびう月
毎のうを日く。みるとびあるけどその時ハさうとうとなる七月十三
十三月海。この夜日いうとびんきのあらきをうあて。あいをくひあしき
時ハ。をいうかをう月とををう。そのあたををヨセ。とあきて。とびをう
ぎ。をうふこの日あたあるくすんぴうけとうひとうきくびあきうのとは
ハふ酒をこのをををびいるまでんぴをうふ。ひ。いであひうぎをあんいるあ
るうあやうをうをきくびさをどうをひみをづもをうあをびそのうく

(二)あつぎこるふぐいろいろかぐや姫の
いまこのくるまいぎあらはこ雲の
うくまだんくとのりくるべ
くとこるようちごを忘れあげ
てあきさけびあげき
るぞいぢらしき。あるふ
神妙のまんあるおれ
やら大いなる丸さ抱あり
酒とりのあきまくたまる
とあり。まさまこのろあくこるぐ

おんこけあの上て対ぐる一品
あり又まるうさぐりて老んぐんの
きふふ五人のひとぐの
名をまるーたる
ふじぶくあり箱
こ面さるるあり
さらくるあり
いろど姫
ぐ
ぐ
ぐ

あるときとし天竺のたまのあんといとあるぐまぐらあべ山
ようとこうどそしてまうらんとこぐまあ大内くうこそをとり鬼ヲノ
らば五人のあれくもるのようとつぐこうふのぐこうれば時おどろき
見とそろくてさてかぐやひめ山のあるく月のこあるの生まれ
酒星ぬのひめぎこみそありうるうと入うこうこぐ色しこひ人の雲のべふ
くりしとんくんあつ色きすあうとてぐこうる。神とそ去ぐうる
（こうどんあきふが去らせふようてぐかぐやひめが月のこやこう色雲を
きこしめしぐいふかとうきぐんちうをあとうたまひしぐせうこあくまづ
翁がいふいうこのひとしふとこらんせあうんとみあきあうれば翁
ここのるれ封ぐたうふとこしあぐる。こうとかんてぐうらふうあうふ覚

あうふ不老不死のくこうこうこうどくぐこうるしの
きつけあうこうふ色しこうふ山不老といつるふうつぐふ扁豆
のこうこうこうを田舎の俗うんぐぐうらうと云うみて上ず信ず甲ずの武
家ふこの名つこうる。又不死といつるもこうぐふあべ五倍子のこうる。
この二品ものこうとこうとあちひ考るとれふきんこうものうまひ
あく武家ゆるふ他のまんさくあることうこぐひこ。そのあうほこうつ
インゲンのインハインモンのインあうこうこうふ豆をこうふまべインギンマ女と云
こうあうまこうこぐふうふあうのをあうあれあうふんきんの女
ふふうこうつけこせこうこうあつこうるこれふこうぐこうこうあひこぐこうく
生ぐこうこのまこうこのこうあうこうちあふ老子賢人智者もぐこうこう

ちゑとくらべてみるとこの
かみつけとごらんあるべし
ぶしと
ふつし
もうえん
びやうる寿徒あり
餘人ことごとくのべがたし
さまたれども不老不死あり
さらんあるべからずあるべからず
る神仏の恩ごとく王代いよ〳〵

五人
ふあしまるさあと
まるかきあんざき
ちゑと天とをの〳〵てよろこびあり
えもつけあり
菊ゐゐふら
あら人あるべ
酒をせとしてもて
べ〳〵とをあハち

酒屋のうちのあるじと下人のあつまりさざめき〳〵さうそやとうたへども
ゐしふかくとさゝへ酒えせもんどもかくうたうぐひす〳〵まこと七月十三るかぐやひめ
雲のうへ〳〵ふりしるとぐこの日とおやこのさうもとおひたのせつふこころに十
さもとぐけさもこの日あつけうといふもあぐのようつぬきうまめうぐ〳〵
〳〵十三るふもきこうぐうふそもゆあるあること者る〳〵うあさあ月をとる
うもかぐやひめむざ〳〵とうん〳〵うるこひあきみそあたあるまうもの
五人のあもおきあがらくあきこうてんうのなまうのあをいうきき
ひ〳〵ゆうをばそのかきつけふ日あんぢうみ人のあがもそのうそひたる
とても女のうとむづしきゆるけきあ者うう〳〵きんぜいうるべし者うう
おの〳〵一生あんらくふううう者るぐ〳〵まつ鬼ゐ帝ハ

かぐやひめ

かぐやひめとやく〳〵とそ天の川の川上のきつて一枚あるくまこと丹ちゆハ水流の
てあそびのやわふひとうらくもうるべ〳〵とて月の桂木のきつて一枚まこと
忠左ハ提灯屋ふるべ〳〵とてんぢくの丹やぶのきつて一枚まこと者ハハ
手そどうの者あんとうるそべ〳〵とそあぐさのきつて一枚まこと者ハ帝ハ
たいとうちうるべ〳〵とそめでこせすのひのきつて一枚。右ゐ人のあの人うう
つまこあうと。者ひしうてんていうのゐんつけるとぐ。ふゐ〳〵ようこひそのう
者ゐぐゐひとえじめうるふ。月ふまし〳〵ゐゐたんゐゆうみてまうて〳〵うちふく
らづうのあじとあうつあまこのこゐねとまうけあふふうくあ。ふる。
今せふうふうとうの鬼ゐ帝がこうらくたしやくあうつ。ふとものう
とあうそひの古文のやうあぶハ。垂ぐぐとぐあ四十七きのてふちんハこの者七ゐ

そこめ、さそめとどろといふてとどろくハさぐ八がえ役ゆそ九なとあらよ九ゆうき
と申さと花といつるハこの花ゆ舞ゐ九ゆ九ら家とそうていひをじゆ〜ゆ〜じきん
集といふ書ふ〜〜〜〜。まこ志ゐをあてきるゆ人男といふものゆ九ゆ人
のるゆ。とうゆとてつそしゆ九ゆ九ゆ。五人ゆもあゆ〜。五人組ゆ九ゆ九ゆ
大屋さんのうゆあるゆ〜ゆ法ゆ師ゆ九ゆ九ゆ〜

○そそまこ酒ゆの箱ゆてんてゆうゆ九ゆ九ゆうゆ九ゆ九ゆしゆの丸き酒屋とのきふる
〜〜酒ゆ九ゆをゆひゆきゆ九ゆふ。〜ゆをゆびゆ〜きゆのゆそゆの日ゆ九ゆ。ゆびゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆあきゆあひ
ゆうゆて。ゆ九ゆをゆふゆとゆ九ゆ九ゆ九ゆ酒ゆとゆ九ゆ酒屋ゆの九ゆ九ゆとゆ酒ゆ九ゆ〜ゆ〜ゆ九ゆ九ゆえ
のゆちゆふ常ゆの家ゆとゆ九ゆ九ゆひゆきゆ九ゆ九ゆ。ゆきゆあゆ酒ゆの日ゆ〜ゆ九ゆんゆ九ゆ。ゆ九ゆ九ゆと
ゆ九ゆ。ゆそゆ九ゆの酒ゆをゆ九ゆ九ゆ九

たまゝ[illegible]ゆくゑ[illegible]。おのゝもゝのあとえんどゆくえ[illegible]
まとそ[illegible]ちとうつ〳〵とう。[illegible]ふつゝしたう〳〵とこのゝ[illegible]。おきあ[illegible]
いちぐ[illegible]おもわ[illegible]とくん〳〵そこの宮とゆるしなる[illegible]
くふ〳〵ふ酒つゝるいこ、[illegible]おもふ[illegible]この[illegible]
おきあ[illegible]ゆくよろはじまりしとあつ。[illegible]とあ酒とのの
いふ酒のゝいこ[illegible]とひろめ我[illegible]ゆくゝの人を[illegible]
かこ[illegible]じ他者もお臣しくしあ[illegible]ぬ[illegible]上の
ごゆゆくん[illegible]ふ酒[illegible]しくゝ[illegible]
とあそ[illegible]ゆくとゆ[illegible]ゆくゝと[illegible]

酒取物語大尾

本傳

[illegible]